

# 参考資料

## 平成19年度新潟県中越沖地震の被災状況

(平成19年11月1日現在)

柏崎市災害対策本部

- 発 生 時 刻：7月16日(月)午前10時13分
- 震 度：6強
- マグニチュード：6.8
- 震 源 地：上中越沖 新潟の南西60km  
北緯37度33.4分 東経138度36.5分 深さ17km
- 市災害対策本部設置：7月16日10時53分
- 災害救助法の適用：7月16日20時
- 政府現地連絡対策室設置：7月16日20時30分 撤収：8月10日
- 県現地対策本部設置：7月16日21日50分 撤収：8月10日
- 自衛隊派遣要請：7月16日10時40分 撤収：8月27日
- 激甚災害指定(局激)：8月10日
  
- 人 的 被 害：死亡 13人(刈羽村1人)  
けが人1,664人
- 建物被害(住居)：27,473棟  
(全壊：1,049棟 大規模半壊：668 半壊：3,704 一部損傷：22,052)
- 避難勧告(11箇所)避難指示(5箇所) 計16箇所 151世帯 415人
- 原子力発電所の状況：全号機停止中 2号機記動操作中自動停止  
3,4,7号機自動停止 1,5,6号機定期点検中
  
- ライフライン被害
  - ・ガス 戸数30,978 8月27日全面供給
  - ・水道 戸数40,260 8月4日完全復旧
  - ・電気 7月16日停電戸数23,000戸 7月18日復旧
  - ・施設被害(百万円) 総額230,994  
住家・非住家(186,413) 公共施設(4,076) 文教施設(414)  
土木(26,004) 農林水産(7,460) ガス(5,113) 水道(1,514)
  
- 避難所設置状況
  - ・ピーク時(7月17日) 箇所数：82箇所 避難人数11,410人
  - ・8月31日 解消
- 在宅高齢者安否確認 対象者数9,017人 7月21日最終確認済
- 災害ボランティア 累計人数20,399人
- 応急仮設住宅の建設 39ヶ所 1007戸 入居約2,420人
- 支援 自衛隊(人命救出、給水、物資輸送、ビニールシートかけ、入浴施設 等)  
内閣府、海上保安庁、農林水産省、国土交通省、厚生労働省、気象庁 他  
新潟県 他都道府県 市町村他
  
- 平成19年9月1日 復興支援室 柏崎市中越沖地震復興本部 を設置



### JR柏崎駅



### JR青海川駅



### 災害対策本部



### ガス水道復旧作業



### 仮設住宅建設



### 警察の活動



## 陸上自衛隊の活動



## ごみ集積場(小松エスト跡地)



## 中越沖地震による柏崎市の被害状況

- 死者 13名 重軽傷者 1,664名
- 住宅被害(住家)
 

全壊	3,363	(1,049)
大規模半壊	944	(668)
半壊	5,970	(3,704)
一部損壊	41,655	(22,052)
- ライフライン
 

水道	全市40,260戸給水停止	8月4日復旧
ガス	全市30,978戸供給停止	8月26日復旧

## 避難所及び仮設住宅設置状況

- 避難所開設状況
 

82箇所	11,410人(ピーク時)
8月31日に全て閉鎖	
9月1日から一時待機所を設置(民宿等)	
- 仮設住宅設置状況
 

39地区	1,007戸設置
------	----------

## 要援護者の状況

- 身体障害者 524人(100人)  
身体障害者手帳第1種所持者
  - 知的障害者 238人  
療育手帳A所持者
  - 精神障害者 321人(105人)  
精神障害者保健福祉手帳1・2級所持者
- \* ( )は単身世帯数・課題もあり  
\* 高齢者については介護高齢課で対応

## 要援護者台帳作成経過

- 平成16年7月16日 水害  
床上浸水 14戸 床下浸水 160戸  
避難所 32箇所 577人
- 平成16年10月23日 中越大震災  
避難所 84箇所 6,484人
- 平成17年6月28日 水害  
床上浸水 167戸 床下浸水 367戸  
避難所 32箇所 727人

- 災害担当部署及び福祉保健部で協議
  - 平成18年度より福祉総合システム稼動  
防災担当課へは紙ベースで提出
  - 平成18年度末に要援護者定義決定
  - 自主防災組織設置の推進(防災課)
  - 福祉避難所検討会開催(19・7・19予定)
- \* 水害・原子力防災対応を想定していた。

## 中越沖地震での初期対応

- 全市民が要援護者状態  
震度5以上の場合全職員が登庁
- 登庁職員  
被害状況調査実施  
被害状況の把握  
避難所設営(各避難所担当が事前に決まっている)  
支援物資の対応  
派遣支援員(自衛隊・自治体・国等)対応

## 要援護者安否確認は行政 では現実的に対応不可能

- 電話が不通(各施設も含め…)
  - 被災者の避難所への移動
  - 各担当職員の本部・避難所への動員
  - **一次避難は地域(自主防災組織)が原則**
- 一方で…
- 7月26日未明の大雨による対応  
土砂災害警戒情報が発令された地域の 要  
援護者の対応は可能であった。

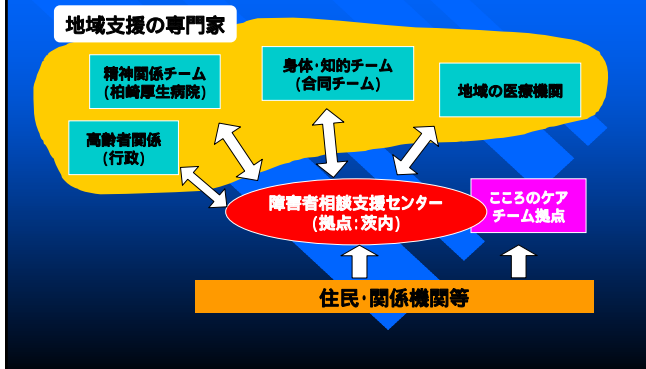
## 事業者等関係機関との連携強化

- 障害者福祉制度の変革  
措置制度 支援費制度 障害者自立支援法  
制度の改革により、市の情報の質が低下した
- 各事業所の対応  
各種サービス事業を利用している障害者に対し、事業者からの安否確認が適切・迅速に実施された。  
児童についても、各学校において安否確認が実施され、教育委員会は把握していた。

## 障害者相談支援センター設置

- 「茨内地域生活支援センター」を拠点とし、同センター及び「障がい児(者)生活支援センターふくし・ぱーとなー」に県内相談支援事業者等の協力を得て活動を開始する(7月18日～9月30日)  
\* 派遣相談員延べ 275人
- 「ふくし・ぱーとなー」は、市福祉課内に拠点設置行政の持っている各種情報(民生委員・災害・各種支援情報等)の提供と共有
- 「茨内地域生活支援センター」には、「こころのケアチーム」が併設され、一体的な支援を実施

## 支援体制



## 障害者相談支援センター活動内容

- 自宅及び避難所への訪問活動
  - 電話による安否確認・状況把握
  - 各種情報提供
  - 関係機関との連絡調整
  - ニーズ把握
  - カウンセリング・・・等
- ↓
- 安否確認  
7月23日終了
- 7月18日～  
一次スクリーニング

7月23日～  
二次スクリーニング

個別支援活動

## ニーズ把握により実施した事業

- ・ 重度障害者への入浴サービス(元気館) 7月23日～8月17日の間実施  
 仮設入浴などの利用が困難な障害者を対象に、自衛隊から元気館の特殊入浴風呂に給湯してもらい実施  
 利用者 延べ266人
- ・ 在宅障害児童の日中支援サービス(さざなみ学園) 8月6日～31日の間実施  
 学校の夏期休暇と重なったこともあり、被災世帯の負担軽減を目的に日中支援(介助)を実施  
 利用者 実利用者数6人 延べ30人日

## その他 実施した主な事業

- 聴覚障害者への支援(新潟県ほか)  
 7月20日～7月29日まで実施  
 手話通訳者・奉仕員等による自宅や避難所訪問により状況把握。(県の手話通訳者派遣、(社)県聴覚障害者協会の訪問活動及び市手話サークル等連絡協議会の手話奉仕員派遣)  
 訪問人数 延べ151人
- 視覚障害者への支援(市内の点訳、音訳奉仕会)  
 7月30日、8月11、20日発行の市臨時広報の点訳・音訳版を作成

## 各施設の対応

- 入所施設において緊急ショートの実施及び避難の受け入れ
  - 県内外福祉施設職員の動員を受ける
  - 養護学校での一時受け入れ
  - 通所施設での障害児者受入の開始
- 今後各施設へのアンケート実施の検討

## 医療救護活動について

### (1)DMAT(災害派遣医療チーム)の活動

- 災害発生から概ね48時間以内の活動
- 専門的トレーニングを受けた救命治療を目的とするチーム
- 40病院から42チームが派遣される  
県内5病院・5チーム 県外35病院・37チーム
- 拠点病院でのトリアージ・他病院への搬送・崩壊現場や避難所での医療活動

### (2)医療救護班の活動

- 被災地における医療救護班数  
活動延べ班数 380班 派遣病院・団体数 70病院等
- 活動期間  
7月16日～8月16日 32日間
- 活動内容  
避難所での初期救急医療  
診療所での診療活動  
避難所での日中及び夕刻の巡回診療活動等
- 診療実績  
延べ 7,677人

### (3)その他

県外派遣保健師延べ3,547人が8月31日まで活動  
派遣自治体数 80自治体

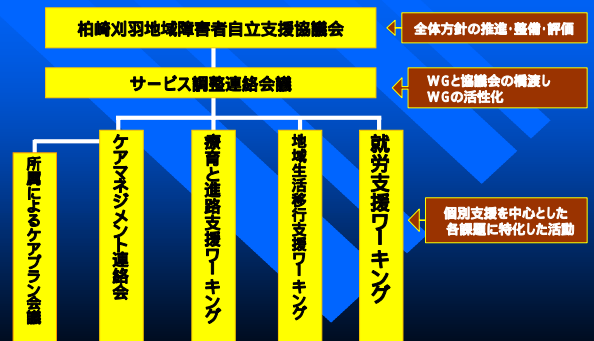
## 自立支援協議会設立の経過

平成18年1月から障害者自立支援法施行に伴う連絡会議(通称「連絡会議」)を設置

地域自立支援協議会への展開を視野に入れつつ、当初は市及び市内の関係事業者・機関が連携して新しい制度の円滑な実施を図るため、月1回のペースで協議を重ねた。

平成19年4月に、刈羽村と共同で柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会を設置

## 自立支援協議会の組織体系



## 今後の課題

- 「要援護者名簿」とは何なのか？
- 誰が主たる支援者なのか？
- 主たる支援者とのネットワークは？
- 行政・事業者・学校等情報共有は可能か
- 各関係機関の連携の必要性
- 自立支援協議会の役割

## ご清聴ありがとうございました

中越沖地震での多くの支援に感謝します。

復興に歩みだした柏崎に遊びにきてください。

## 中越沖地震における 障害者支援活動状況報告

19年11月19日

第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 中越沖地震による被害状況

発生時刻：平成19年7月16日(月)午前10時13分、震度：6強、マグニチュード6.8

		柏崎市	刈羽村	合計
人的被害	死者	13名	1名	14名
	重軽傷者	1,664名	116名	1,780名
	全壊	3,363戸(1,049戸)	699戸(166戸)	4,062戸(1,215戸)
住宅被害	大規模半壊	944戸(668戸)	228戸(136戸)	1,172戸(804戸)
	半壊	5,970戸(3,704戸)	683戸(305戸)	6,653戸(4,009戸)
	一部損壊	41,655戸(22,052戸)	1,864戸(651戸)	43,519戸(22,703戸)
ライフライン	水道	40,260戸	1,312戸	41,572戸
		8月4日復旧	7月31日復旧	
	ガス	30,978戸	1,312戸	32,290戸
		8月27日復旧	8月26日復旧	
電気	23,300戸	1,565戸	24,865戸	
	7月18日復旧	7月18日復旧		

(データ基準日 = 人的被害：柏崎市10/23、刈羽村11/1、住宅被害：柏崎市11/1、刈羽村10/23)

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 避難所及び仮設住宅設置状況

		柏崎市	刈羽村
避難所	開設状況	82箇所	5箇所
	福祉避難所	6箇所	1箇所
	避難人数(ピーク時)	11,410人	791人
	閉鎖日	8月31日	8月20日
仮設住宅	開設地区	39地区	1地区
	設置戸数	1,007戸	200戸

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 要援護者の状況

		柏崎市	刈羽村	合計
身体障害	人数 ( )内単身世帯	524名 (100名)	68名 (2名)	592名 (102名)
	対象者	身体障害者手帳第1種		
知的障害	人数 ( )内単身世帯	238名 (0名)	2名 (0名)	240名 (0名)
	対象者	療育手帳A		
精神障害	人数 ( )内単身世帯	321名 (105名)	11名 (0名)	332名 (105名)
	対象者	精神障害者手帳1、2級		
合計		1,083名 (205名)	81名 (2名)	1,164名 (207名)

柏崎市：65歳以上は除く(介護高齢課で対応)

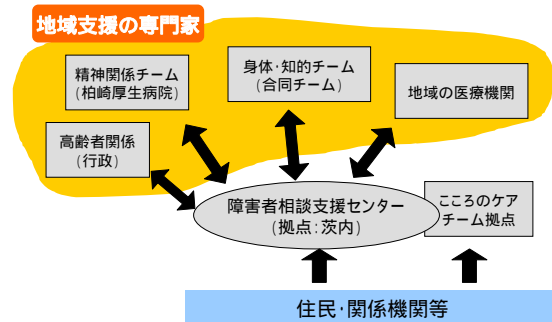
19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 障害者相談支援センター設置

- 「茨内地域生活支援センター」を拠点とし、同センター及び「障がい児(者)生活支援センターふくし・ぱーとなー」に県内相談支援事業者等の協力を得て活動を開始する  
\*7月18日～9月30日 \*派遣相談員延べ275人  
\*柏崎市：安否確認 ニーズ調査 個別支援  
\*刈羽村：行政による安否確認後、未確認者のフォロー等
- 「ふくし・ぱーとなー」は、市福祉課内に拠点設置 行政の持っている各種情報(民生委員・災害・各種支援情報等)の提供と共有
- 「茨内地域生活支援センター」には、「こころのケアチーム」が併設。連携し、一体的な支援実施

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 支援体制



出典：茨内地域生活支援センター 同部正文

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 障害者相談支援センター活動内容

(柏崎市の例)

- 自宅及び避難所への訪問活動
- 電話による安否確認・状況把握

安否確認  
7月23日終了



- 各種情報提供
- 関係機関との連絡調整
- ニーズ把握
- カウンセリング・・・等

7月18日～  
一次スクリーニング

7月23日～  
二次スクリーニング

個別支援活動

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 支援の特徴

	7月後半	8月前半	8月後半	9月前半
児童	こころのケアに関する問い合わせが多い。片付け時の一時預かり。	避難所での見守り支援。ボランティアに遊んでもらう。	学校が始業することに関する相談。	こころのケアに関する相談は、ほとんどなし。
身体障害	入浴(医療・透析等)に関するニーズが多い。	入浴、片付けに関する声大。	情報を丁寧に渡す。視覚障害者のり災証明。	仮設住宅入居に伴う支援。
知的障害	水・食料・各種情報を求める声。	避難所での見守り、片付け時の一時預かり。	親から離れられない。親への支援。	仮設入居に伴った支援。最終スクリーニングで事例。
精神障害	避難所から「さんは大丈夫?という問い合わせが多い。	1件のケースに長時間を要するケースが多い。	通常支援を徐々に再開。	きめ細かい支援を要するケースが多い。
高齢者	チラシを見て間違えて相談してくるケースが多い。		特に相談なし。	高齢であっても障害を合併しているケースの相談あり。

出典：茨内地域生活支援センター 岡部正文

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## ニーズ把握により実施した事業

- 重度障害者への入浴サービス(柏崎市元気館)

7月23日～8月17日の間実施  
仮設入浴などの利用が困難な障害者を対象に、自衛隊から元気館の特殊入浴風呂に給湯してもらい実施  
利用者 延べ266人

- 障害者・高齢者への入浴ヘルパー調整(刈羽村)

ボランティアにより提供を受けた障害者・高齢者用風呂の利用にあたり、入浴介助ヘルパーの派遣調整を行う。

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## ニーズ把握により実施した事業

- 在宅障害児童の日中支援サービス(さざなみ学園)

8月6日～31日の間実施  
学校の夏期休暇と重なったこともあり、被災世帯の負担軽減を目的に日中支援(介助)を実施  
利用者 実利用者数6人 延べ30人日

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## その他 実施した主な事業

- 聴覚障害者への支援(新潟県ほか)

7月20日～7月29日まで実施  
手話通訳者・奉仕員等による自宅や避難所訪問により状況把握。(県の手話通訳者派遣、(社)県聴覚障害者協会の訪問活動及び市手話サークル等連絡協議会の手話奉仕員派遣)  
訪問人数 延べ151人

- 視覚障害者への支援(音訳、点訳奉仕会)

7月30日、8月11、20日発行の市臨時広報誌等を点訳・音訳広報を作成。

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

## 中越沖地震により浮かび上がったもの

別添の資料

「浮かび上がった生活上の不便や課題」の見方

### 1. データ抽出の条件

要支援者のうち、一次、二次スクリーニングを行った結果、継続支援の必要な301ケースから82ケースを抽出

### 2. キーワードの抽出

82ケースの個別ケース票から生活の不便となったキーワードを抽出(1ケースあたり複数抽出あり)

### 3. キーワードの集約

KJ法により2段階に分類し、更に障害種別で細分化

19.11.19 第2回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会

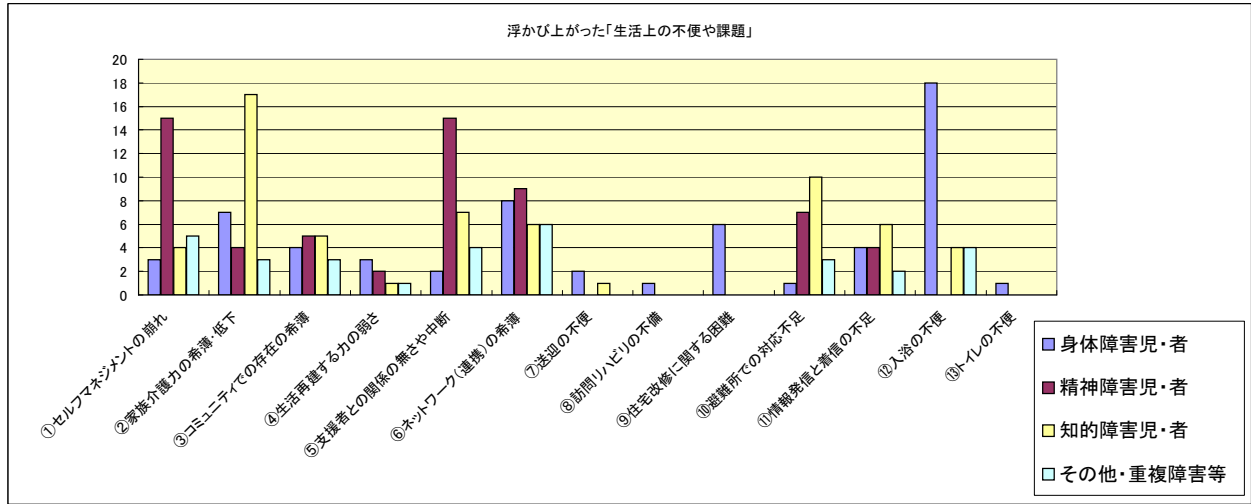
別 添

# 浮かび上がった 「生活上の不便や課題」

～障害者相談支援センター(茨内地域生活支援センター、ふくし・ぼーとなー)元気館デイサービスセンターの継続支援対象児・者より～

対象者人数 (実数)	身体障害児・者	33人
	精神障害児・者	22人
	知的障害児・者	20人
	その他・重複障害児・者	7人
	合 計	82人

生活上の不便や課題 (延べ件数)	①セルフマネジメントの崩れ	②家族介護力の希薄・低下	③コミュニティでの存在の希薄	④生活再建する力の弱さ	⑤支援者との関係の無さや中断	⑥ネットワーク(連携)の希薄	⑦送迎の不便	⑧訪問リハビリの不備	⑨住宅改修に関する困難	⑩避難所での対応不足	⑪情報発信と着信の不足	⑫入浴の不便	⑬トイレの不便	合 計
身体障害児・者	3	7	4	3	2	8	2	1	6	1	4	18	1	60
精神障害児・者	15	4	5	2	15	9	0	0	0	7	4	0	0	61
知的障害児・者	4	17	5	1	7	6	1	0	0	10	6	4	0	61
その他・重複障害等	5	3	3	1	4	6	0	0	0	3	2	4	0	31
合 計	27	31	17	7	28	29	3	1	6	21	16	26	1	213



〔表2〕「生活上の不便や課題」の詳細

は、障害があることで、より特徴的と思える事項

	①セルフマネジメントの崩れ	②家族介護力の希薄・低下	③コミュニティでの存在の希薄	④生活再建する力の弱さ	⑤支援者との関係の無さや中断	⑥ネットワーク(連携)の希薄	⑦送迎	⑧訪問リハ	⑨住宅改修	⑩避難所の対応不足	⑪情報不足	⑫入浴	⑬トイレ	合 計			
生活上の不便や課題	セルフマネジメントの低下 <b>環境変化に不適応</b> 意思疎通困難 病状悪化 夜間対応メール対応増加 就労中断 <b>家族親戚など介護力の低下</b> 把握の無いひきこもり 複数問題ある家族の軋轢混乱 支援拒否による見守り 知人、大家の協力あり <b>町内会、コミセン、民生委員の見守りあり</b> 町内で孤立、特別視 経済力や経済的段取りの不安 SS退所・退院の遅れ 住居確保の困難(保証人手続き等) <b>普段からSOS出せる支援相談関係</b> 主たる支援者なし・不明確 <b>リストからの最優先での関わり</b> 介護保険との連携 医療との連携・往診など <b>専門家ポラの必要</b> 多忙によるスタッフのマンパワー不足 <b>移送サービスの不便</b> 訪問リハ制度の不備 風呂手すりなどの改修不備 避難所等との連携 <b>障害に対応できない避難所運営</b> 子どもの日中一時(遊び場なども含む) 学校の場の開放 <b>情報理解認知、周知不足への対応</b> DSでの入浴困難(ライフライン) <b>自衛隊風呂の段差・異性介護の困難</b> <b>仮設トイレの使用困難</b>																
身体	2	0	0	0	0	1	7	0	0	0	2	1	1	3	0	0	60
精神	4	6	0	3	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	0	1	61
知的	1	3	0	0	0	0	9	1	6	1	3	0	2	0	0	0	61
その他・重複等	0	3	1	1	0	0	3	0	0	0	1	1	1	0	0	0	31
小計	7	12	1	4	1	2	20	2	7	2	9	3	5	4	1	2	161
合計	27	31	17	7	28	29	3	1	6	21	16	26	1	213			